

3 年 1 組 道徳科学習指導案

授業者 改田静華

1 主題構成表

主題名 家族愛

資料名 ブラッドレーのせい求書

■ 内容項目 C 家族愛、家庭生活の充実
父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合
って楽しい家族をつくること。

■ 価値の分析

- ・ 児童の人格形成の基盤は家庭にある。家庭で養
われる道徳性は様々な集団や社会との関わり
の基盤にもなっていく。児童が家族一人一人に
ついて理解を深め、父母から受けついだ生命
であることを自覚し、家族を敬愛する心を求めら
れている。また、家族が互いの立場を尊重しな
がら、家族に貢献することの大切さに児童が気
付くことで、児童自身も家族の中での立場や役
割を自覚できるようになる。
- ・ 自分なりにできることで家庭生活に貢献すれ
ば、家族のために役立つ喜びが実感できるよう
になる。その中で、家族や家庭生活を大切にし
ようとする気持ちを深め、よりよい家庭を築けるよ
うに指導することが必要である。
- ・ 中学年においては、家族の役に立っていること
や、家族に感謝されることを経験し、自分がかけ
がえのない家族の一員であることを自覚し、協
力し合って楽しい家庭をつくらうとする態度を育
てる。

■ 内容項目から見た児童の実態 (意識)

- ・ 4月から一家庭一ボランティアを
通して、家族の一員としてお手伝
いを進んでやろうとする児童が増
えてきた。
- ・ 父母が家事をしていても、自分の
好きなことをしたいという気持ちが
強く、手伝おうとしない傾向もある
。家族のことを思って、進んで手
伝おうとする児童は少なく、言わ
れるままに仕方なくする児童や、
決められた手伝いが出来ていな
い児童もいる。

(要因)

- ・ 日常の中で家族が自分たちにし
てくれていることは、当然だと思っ
ている児童が多い。
- ・ 家族の役に立っているという実感
をもっていたり、自分がかけがえ
のない家族の一員であることを自
覚したりする経験が少ない。

■ 資料の分析 ブラッドレーのせい求書

- ・ この資料は、ブラッドレーが母親に請
求書を渡し、請求書を見た母親が
何も言わず、4ドルと請求書を置く場
面と、母親からの0ドルの請求書を見
て、目を涙でいっぱいにし、お金
を返す場面の2つの場面で構成さ
れている。表面には出ていない2人
の心の動きが、家族愛について考
えるのに効果的である。
- ・ 資料の前半では、ブラッドレーが請
求書を書いたときの気持ちを考える
ことで、ブラッドレーによりいっそう共
感することができ、同じように自分も
他律的に手伝いをしていたことに気
付かせる。
- ・ 資料後半では、母親からの請求書を見
た時のブラッドレーの気持ちを考
えることで、自分たちへの父母の無
償の愛に気付き、自分も家族の一
員として協力しようとする気持ちの
変化に共感させるようにする。

■ ねらい

自分が家族にとってかけがえのない存在であることと、その中の一員であることに気付き、積極的に楽しい家族をつくることを実践しようという心情を育てる。

■ 展開の構想

- ・ 家族のためにしていい手伝いは何があるか考え、そ
の手伝いをしている理由を考える。
- ・ ブラッドレーはどのようなことを考えながら請求書
を書いたのか、母親から0ドルの請求書もらった
時、ブラッドレーはどう思ったかを考えさせ、無償
の愛に気付かせる。
- ・ ブラッドレーが「このお金は返します。」と言った時
の気持ちを考えさせる。
- ・ 行為だけでなく、その時における自分の気持ちも
振り返らせ、これから家族のために役立ちたいと
いう気持ちを高める。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問]「母親の0ドルの請求書を見た時のブラッドレーは、どんな気持ちです
か。」という問いで、母親の行動から、ブラッドレーの気持ちが変化したことにつ
づかせる。
- [学習形態] 母親からの0ドルの請求書を見た時のブラッドレーの気持ちについて、グ
ループ交流を行い、家族の一員として手伝いをすることは当たり前だという心情の
変化に気付かせる。
- [学習形態] 保護者からの手紙を用意し、自分が家族の一員であるということに気付
かせ、家族みんなで協力し合おうという心情を育てる。
- [言語活動] 展開後段では、道徳ノートを使って、今までの自分がどのような姿であ
ったか振り返る。またこれから家族の一員として家族を大切に思い、協力して生活し
ようとする気持ちを書く。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充・**深化**・統合)

学活「家族みんなで協力し合って」→道徳科「ブラッドレーのせい求書」→学活「一家庭一ボランティア」
家族や家族の立場や思いに気付き、改めてじっくり考えることを通して、自分が家族の一員としてどのようにしたらよいのか
について、考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	お手伝いについて考える ○ 普段どんなお手伝いをしていますか。 ・ 部屋の掃除 ・ ご飯の用意 ・ 新聞を取りに行く。 ○ なぜするのですか。 ・ お母さんに言われるから。 ・ お母さんが忙しそうで、仕方ないから。	・ 一家庭一ボランティアのカードを使って日常生活を想起させる。 ・ 手伝いをしている理由を出し合うことで、家族の一員としての役割分担を面倒だと感じたり、仕方がないからという思いがあったりしたのではないかを考えさせる。（他律的に手伝いをしている。）
展開	家族の一員としての自分の役割を考えよう。 資料「ブラッドレーのせい求書」を読んで話し合う。 ○ ブラッドレーがせいきゅう書を書いたとき、どんな気持ちですか。 ・ お手伝いしたのだから、お駄賃がほしい。 ・ 手伝ったのだから、当然だと思う。 ・ お小遣いくれるかな。 ・ いつも手伝っているからたまにはご褒美がほしいな。 ○ お母さんの0ドルの請求書を見たときのブラッドレーは、どんな気持ちですか。 ・ 何で全部0円なんだろう。 ・ なんて恥ずかしいことをしてしまったのだろう。 ・ お母さんは、お金をもらうためにやっているのではなく、ぼくたちのためにやってくれていたんだ。 ・ これからはお金はもらわないようにしよう。 ・ 今まで自分のためにいろいろなことをやってくれていたのに、ぼくのわがままだった。（この涙の意味・・・） ・ 愛されているということの嬉しさ ・ 大切にされていることの感動 ・ 母親の気持ちを知ることができた喜び ・ 家族の一員としての自覚 ・ 4ドルの請求書を書いたことへの反省 ○ 「このお金は返します。」と言ったブラッドレーはどんな気持ちですか。 ・ やって当たり前。 ・ お金を返して謝ろう。 ・ これからは、自分からお手伝いをしたい。 ・ お金が欲しいからやるのではなく、自分から進んでお手伝いしたい。 ・ 家族の一員として頑張れることをさがしたい。 学習のまとめをする。 ○ 家族の一員として今までの自分の行為や気持ちを振り返り、これからどのようにしたいですか。 ・ 今までは、お母さんに「手伝って」と言われるので、仕方がなく手伝っていました。 ・ でも今日の道徳で、家族の一員として自分のできることを探して、進んで手伝いたいです。	深めの発問 「なみだでいっぱい」になったブラッドレーはどんな気持ちだったでしょう。 ・ ブラッドレーの請求書とお母さんの請求書と同じものを用意して児童全員に配り、グループ交流や資料提示の際に使用する。 ・ どんな理由で小遣いが欲しいと思ったか意識させ、子どもたちの反応をまとめることで、自分のことだけしか考えていないブラッドレーの気持ちについて気付かせるようにする。 ・ 「どうして0ドルの請求書を渡してきたのだろう」というような補助発問をし、お母さんの無償の愛に気付かせながら交流をすすめるようにする。 ・ 母親からブラッドレーが請求書もらった場面でグループ交流をし、気持ちを確認する。 ・ 家族なんだから助け合うことが当たり前というブラッドレーの心の変容を考えながら進めていけるように、板書の仕方を工夫する。（自立的に手伝いをしようとしている。） ・ 道徳ノートに、家族の一員として、これからどうしていきたいか書かせる。
終末	○ 手紙を読む。 ・ 保護者からの手紙を読む。	・ 家族の一員であることをしっかりおさえ、自分の出来ることで助けたいという意識をもたせる。 変容の見届け 自分が家族にとってかけがえのない存在であることと、家族の一員であることに気付き、進んでお手伝いをしたいという気持ちをもっている。

3年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
C 家族愛、 家庭生活の 充実	国語	ちいちゃんのかげおくり		
	学活	運動会の振り返り		
	道徳	ブラッドレーのせい求書		
	学活	楽しい冬休み		
	日常	音読カード		
	家庭	一家庭一ボランティア		

< 2学期所見 >

評価のしかた 視点 C 家族愛，家庭生活の充実

道徳の授業 ・母を敬って，楽しい家庭を築こうとすることについて，考えを深めることができたか。
・家族の一員として，楽しい家庭を築こうとする気持ちを高めることができたか。

日常生活（一家庭一ボランティア，日記など）
・家族の一員として自分のできることを見つけて頑張ることができたか。